相模原から日本を変える！
季刊・2019年春号

つくる。
幸せ色あふれる
相模原

もとむら賢太郎さんの政策が発表されました。

今年1月10日、もとむら賢太郎氏が相模原市長選挙への立候補を表明。そして、2月18日、政策発表が行われた。100を超える政策は市民の声を集めたものだという。その中身について、話を聞いた。

もとむら賢太郎さんの10のシナリオ

1 シニア世代の“移動”をもっと自由に、“広がる活動”でもっと幸せに

元気シニアの行動をより楽しく、自由にし、まちの中でイキイキと活動するために市内バスの**敬老パス**を導入します。

2 子どもたちに“わかった！”の幸せを

学校の授業の理解・定着を進めるため、**習熟度に合わせた授業を導入**します。

3 “安心・安全”の都市は幸せの基本

地区防災訓練を充実させ、分散型備蓄を進め、地域防災力を高めます。

4 “公園を再生”してのびのび遊べる幸せを

あれもダメ、これもやっちゃダメのダメダメ公園から、全力で遊べる**全天候型ののびのび公園**をつくります。

5 “スポーツ・文化”を通して市民が誇りをもてる幸せ

スポーツチームはまちに元気とプライドをもたらします。市民あげてホームタウンチームを応援する枠組みをつくります。また、**「地域文化教育」**に注力します。

6 科学技術に強い“人財”を育て世界を幸せに

将来の地域経済を支える人財を市が責任を持って育てるため、科学技術に強い**市立高校を開校**します。県立高校再編にあわせ準備を進めます。

7 “障がい者”と共に暮らす幸せ

障がい者雇用 日本一を目指します。事業所と障がい者のマッチングを充実させます。

8 相模原の幸せ産業は“宇宙 × ロボット”

宇宙産業やロボット産業に強みがある相模原で更なる集積を誘導し、研究から社会実装までを実現する**国内唯一の拠点**を形成します。

9 “働き続ける”幸せ、“地域でつながる”幸せ

シニアの優れた経験値や知的資源を結集して**シニア人財バンク**を創設します。

10 “子育て”しながら働く幸せ

テレワーク拠点を市内各地に整備し、最寄り駅近くのシェアオフィスで働くなど、職住育が家の近くで完結する柔軟な働き方の**相模原スタイル**を実現します。

プロフィール

○昭和45年（1970年）4月生まれ。
○相模台幼稚園・桜台小・相模台中・県立麻溝台高・青山学院大卒。
○東鉄工業（株）を経て、藤井裕久衆議院議員秘書。
○平成15年神奈川県議選に選挙区最年少で初当選。以降、2期務める。
○平成21年衆議院議員初当選。以降、3期務める。
○平成31年国会での活動が評価され、最高評価の三ツ星国会議員に選出。
○妻、一人娘と南区在住

発行：相模原から日本を変える！会　相模原市南区西大沼 2-52-13　TEL：042-851-6152　FAX：042-851-6162
編集人：小林琢典　発行人：水野典之

もとむら賢太郎さんに聞きました！

幸せ色あふれる 相模原をつくる　７つの政策・10のシナリオ

―今回発表された政策は、100項目を超えていますね。

もとむら　そうなんです。「72万人の声を聞くキャンペーン」を展開し、足を運んで、街頭で、SNSで、様々な形で皆さんの声を集め、政策集にまとめました。網羅的にお示ししたのが７つの政策。その中でも、力を入れたい政策を10のシナリオとしてご紹介させていただいております。

―その中でも、最も重視していることはなんでしょうか？

もとむら　今の市政は、市民に開かれていないことが問題だと思っております。そのため、市民の声を聞くプロセスを重視しました。市長室の扉をなくし、月に1回以上各区を回り、対話を行う出前市長室など、**新たな対話の場**を作っていきます。また、豊かな自然と都市のベストミックスを目指せる相模原市は、**日本一のSDGs都市**になることができると思っています。SDGsというのは国連が採択した、「持続可能な社会を実現するために2030年までの達成を目指す17の目標」のこと。持続可能な社会を作るため、**大規模事業はいったん立ち止まって見直す**べきだというのも大きな方向性で、たとえば相模総合補給廠一部返還地の利活用は、市民が憩い、賑わう空間としてスポーツ・市民文化を中心に、市民の皆さんとともに本当に必要な開発は何かを熟慮して決めたいと思っています。

　相模原市には多様な資産と可能性があります。まずは、それらを最大限に活用すべきです。民間の調査では151自治体中、シビックプライド（まちに対する誇りや愛着）が149位でしたが、相模原の魅力をもっと市内外に伝えていきたいですね。

もとむら賢太郎さんの７つの政策

つくる1　行政改革 市民協働
市民とつくる、市民が決める、幸せ色あふれる相模原。

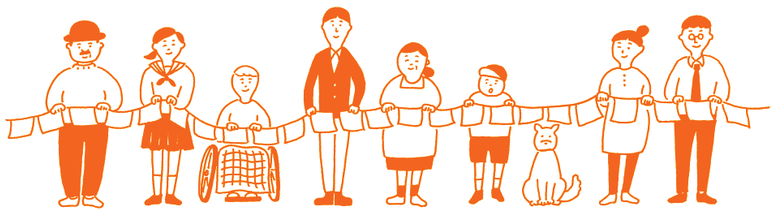
○出前市長室「こんにちは、市長です」「こんばんわ、市長です」（仮称）など市民に開かれた新しい対話の場をつくります。
○ワンストップ窓口の創設、SNSの活用で、市民の皆さんの「困った」に応える行政サービスにします。

つくる2　教育 子育て
子どもたちが元気、子育て世代が幸せな相模原。

○中学校のデリバリー給食を見直し、小学校の自校調理を維持します。
○科学技術に強い人財育成を行うため、市立高校設立を検討します。
○習熟度別授業の導入を検討し、基礎学力定着を促進します。
○日本一子育てしやすいまちを目指します。
○子どもたちがのびのび遊べる全天候型公園を整備します。

つくる3　医療 活躍の場
シニアが元気で幸せな相模原。

○バスの敬老パスを導入します。　○コミュニティバスやデマンドタクシーの充実をはかります。
○「医療から予防」で健康寿命を延ばします。
○シニア人財バンクの創設と、地域の交流拠点を作ります。
○市民の健康増進をはかります。



つくる4　産業振興 観光
産業が元気、働く人が幸せな相模原。

○トップセールスによる企業誘致を行います。　○中小企業支援、若者・女性の企業支援を行います。
○宇宙産業・ロボット産業のスタートアップ支援を行います。
○テレワーク拠点の整備支援を行い、新しい働き方を支援します。
○民間の力を活かした観光振興を行います。　○食べていける農業を支援します。

つくる5　災害対策 環境
災害に強い、安心して幸せに暮らせる相模原。

○地区防災訓練の充実、分散型備蓄で地域防災力の向上を図ります。
○通学路や緊急輸送路の安全対策を充実させます。
○災害時に避難所となりうる施設の設備を整備します。
○環境保全の取組みを進めます。

つくる6　まちづくり 交通網
暮らしやすい、市民が誇れる幸せな相模原。

○相模総合補給廠の一部返還地15haの利用は、市民の皆様と共に決めます。
○駅周辺私有地や未利用地を有効活用していきます。
○大規模な移動実態調査を行い、交通利便性の向上を図ります。
○文化・芸術がとけこんだまちにしてまいります。
○地元スポーツチームを盛り上げ、市民の誇りにしてまいります。
○公民館のあり方について、見直しを検討します。

つくる7　多様性 障がい
多様な生き方が受け入れられ、誰一人取り残されずに幸せな相模原。

○障がい者雇用 日本一を目指します。
○国籍、性、年齢などに関わらずありのままの自分でいられる社会の確立を目指します。
○インクルーシブ教育を拡充します。

相模原から日本を変える！
季刊・2019年春号

つくる。
幸せ色あふれる
相模原

もとむら賢太郎さんの政策が発表されました。

今年1月10日、もとむら賢太郎氏が相模原市長選挙への立候補を表明。そして、2月18日、政策発表が行われた。100を超える政策は市民の声を集めたものだという。その中身について、話を聞いた。

もとむら賢太郎さんの10のシナリオ

1 シニア世代の“移動”をもっと自由に、“広がる活動”でもっと幸せに

元気シニアの行動をより楽しく、自由にし、まちの中でイキイキと活動するために市内バスの**敬老パス**を導入します。

2 子どもたちに“わかった！”の幸せを

学校の授業の理解・定着を進めるため、**習熟度に合わせた授業を導入**します。

3 “安心・安全”の都市は幸せの基本

地区防災訓練を充実させ、分散型備蓄を進め、地域防災力を高めます。

4 “公園を再生”してのびのび遊べる幸せを

あれもダメ、これもやっちゃダメのダメダメ公園から、全力で遊べる**全天候型ののびのび公園**をつくります。

5 “スポーツ・文化”を通して市民が誇りをもてる幸せ

スポーツチームはまちに元気とプライドをもたらします。市民あげてホームタウンチームを応援する枠組みをつくります。また、**「地域文化教育」**に注力します。

6 科学技術に強い“人財”を育て世界を幸せに

将来の地域経済を支える人財を市が責任を持って育てるため、科学技術に強い**市立高校を開校**します。県立高校再編にあわせ準備を進めます。

7 “障がい者”と共に暮らす幸せ

障がい者雇用 日本一を目指します。事業所と障がい者のマッチングを充実させます。

8 相模原の幸せ産業は“宇宙 × ロボット”

宇宙産業やロボット産業に強みがある相模原で更なる集積を誘導し、研究から社会実装までを実現する**国内唯一の拠点**を形成します。

9 “働き続ける”幸せ、“地域でつながる”幸せ

シニアの優れた経験値や知的資源を結集して**シニア人財バンク**を創設します。

10 “子育て”しながら働く幸せ

テレワーク拠点を市内各地に整備し、最寄り駅近くのシェアオフィスで働くなど、職住育が家の近くで完結する柔軟な働き方の**相模原スタイル**を実現します。

プロフィール

- ○昭和45年（1970年）4月生まれ。
- ○相模台幼稚園・桜台小・相模台中・県立麻溝台高・青山学院大卒。
- ○東鉄工業（株）を経て、藤井裕久衆議院議員秘書。
- ○平成15年神奈川県議選に選挙区最年少で初当選。以降、2期務める。
- ○平成21年衆議院議員初当選。以降、3期務める。
- ○平成31年国会での活動が評価され、最高評価の三ツ星国会議員に選出。
- ○妻、一人娘と南区在住

発行：相模原から日本を変える！会　相模原市南区西大沼 2-52-13　TEL：042-851-6152　FAX：042-851-6162
編集人：小林琢典　発行人：水野典之

もとむら賢太郎さんに聞きました！

幸せ色あふれる 相模原をつくる　7つの政策・10のシナリオ

―今回発表された政策は、100項目を超えていますね。

もとむら　そうなんです。「72万人の声を聞くキャンペーン」を展開し、足を運んで、街頭で、SNSで、様々な形で皆さんの声を集め、政策集にまとめました。網羅的にお示ししたのが７つの政策。その中でも、力を入れたい政策を10のシナリオとしてご紹介させていただいております。

―その中でも、最も重視していることはなんでしょうか？

もとむら　今の市政は、市民に開かれていないことが問題だと思っております。そのため、市民の声を聞くプロセスを重視しました。市長室の扉をなくし、月に1回以上各区を回り、対話を行う出前市長室など、**新たな対話の場**を作っていきます。また、豊かな自然と都市のベストミックスを目指せる相模原市は、**日本一のSDGs都市**になることができると思っています。SDGsというのは国連が採択した、「持続可能な社会を実現するために2030年までの達成を目指す17の目標」のこと。持続可能な社会を作るため、**大規模事業はいったん立ち止まって見直す**べきだというのも大きな方向性で、たとえば相模総合補給廠一部返還地の利活用は、市民が憩い、賑わう空間としてスポーツ・市民文化を中心に、市民の皆さんとともに本当に必要な開発は何かを熟慮して決めたいと思っています。

　相模原市には多様な資産と可能性があります。まずは、それらを最大限に活用すべきです。民間の調査では151自治体中、シビックプライド（まちに対する誇りや愛着）が149位でしたが、相模原の魅力をもっと市内外に伝えていきたいですね。

もとむら賢太郎さんの７つの政策

つくる1　行政改革 市民協働
市民とつくる、市民が決める、幸せ色あふれる相模原。

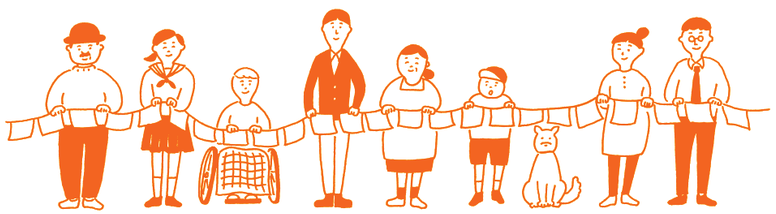
○出前市長室「こんにちは、市長です」「こんばんわ、市長です」（仮称）など市民に開かれた新しい対話の場をつくります。
○ワンストップ窓口の創設、SNSの活用で、市民の皆さんの「困った」に応える行政サービスにします。

つくる2　教育 子育て
子どもたちが元気、子育て世代が幸せな相模原。

○中学校のデリバリー給食を見直し、小学校の自校調理を維持します。
○科学技術に強い人財育成を行うため、市立高校設立を検討します。
○習熟度別授業の導入を検討し、基礎学力定着を促進します。
○日本一子育てしやすいまちを目指します。
○子どもたちがのびのび遊べる全天候型公園を整備します。

つくる3　医療 活躍の場
シニアが元気で幸せな相模原。

○バスの敬老パスを導入します。　○コミュニティバスやデマンドタクシーの充実をはかります。
○「医療から予防」で健康寿命を延ばします。
○シニア人財バンクの創設と、地域の交流拠点を作ります。
○市民の健康増進をはかります。



つくる4　産業振興 観光
産業が元気、働く人が幸せな相模原。

○トップセールスによる企業誘致を行います。　○中小企業支援、若者・女性の企業支援を行います。
○宇宙産業・ロボット産業のスタートアップ支援を行います。
○テレワーク拠点の整備支援を行い、新しい働き方を支援します。
○民間の力を活かした観光振興を行います。　○食べていける農業を支援します。

つくる5　災害対策 環境
災害に強い、安心して幸せに暮らせる相模原。

○地区防災訓練の充実、分散型備蓄で地域防災力の向上を図ります。
○通学路や緊急輸送路の安全対策を充実させます。
○災害時に避難所となりうる施設の設備を整備します。
○環境保全の取組みを進めます。

つくる6　まちづくり 交通網
暮らしやすい、市民が誇れる幸せな相模原。

○相模総合補給廠の一部返還地15haの利用は、市民の皆様と共に決めます。
○駅周辺私有地や未利用地を有効活用していきます。
○大規模な移動実態調査を行い、交通利便性の向上を図ります。
○文化・芸術がとけこんだまちにしてまいります。
○地元スポーツチームを盛り上げ、市民の誇りにしてまいります。
○公民館のあり方について、見直しを検討します。

つくる7　多様性 障がい
多様な生き方が受け入れられ、誰一人取り残されずに幸せな相模原。

○障がい者雇用 日本一を目指します。
○国籍、性、年齢などに関わらずありのままの自分でいられる社会の確立を目指します。
○インクルーシブ教育を拡充します。